Management Club Report

May.2017/Vol.173

Monthly Opinion ≪零細企業ならではの可能性≫

2016年4月、1年前のMCレポート第160号の表題は『一流企業歯科医院になる』で、そのテーマは「一流企業にも引けを取らない気品と誇りに満ちた歯科医院は如何にあるべきか、DBM流の『あり方』を追求する」というものでした。

個々の歯科医院は、規模や売上高などでは一流企業の足元にも及ばないのは当然ながら、そのような外形の比較ではなく、働く人間の品格や組織が志向する価値観など、その中身の品質において一流企業に負けない組織を目指そうと、本文において次のように記しました。

> 世の中の多くの企業は、その規模において大企業と中小企業とに分類され、それぞれが一流企業、二流企業と、その規模にリンクしてイメージされがちではあるが、それは必ずしも正しい評価であるとは言えない。
>
> 大企業でも「儲かれば何でもする」品のない会社はいくらでもある。度々起きる品質偽装や検査結果改ざん事件など、そこに関与する大会社は、見かけは一流だが二流企業だ。
>
> 反対に中小企業であっても、それも零細としか言えない規模の会社でも、掲げた筋道を通し、それを守る凛とした姿勢を崩さず、熱烈なファンの支持を得て、規模を遥かに上回る売上げと利益を上げている会社もある。それは一般的な区分においては中小企業に列せられ世間的な知名度は決して高くはないが、一流の名に値する企業と言えるだろう。

零細企業としての歯科医院は、零細であるがゆえに突破困難な厚い壁も、越し難い高い壁もあるでしょうが、一方、大企業では不可能な、あるいは顧みることのない零細ならではの可能性を見出すこともできるのではないでしょうか。

今月は、先月に引き続き「上質さの追求」を行ってまいります。それは１年前にまとめた『一流企業歯科医院』への道でもあります。大企業では生まれない発想や見えてこない視点で考えてまいります。

1 隙間業務を“雑用”にしない丁寧さの責任と誇り

「用を雑にしたとき雑用になる」

今月前半のメールマガジンで、昨年末にお亡くなりになった**ノートルダム清心学園渡辺和子理事長**の追悼本『**置かれた場所で咲いた渡辺和子シスターの生涯**』（**保江邦夫**著、マキノ出版刊）に書かれた渡辺和子さんの名言をいくつか紹